



—東地中海地域ニュース—

レバノン：各国の対レバノン地対空ミサイル供与拒否 (1月27日付アッサフィール紙)

27日付現地アラビア語紙アッサフィール紙は、仏をはじめとする各国がレバノンからの地対空ミサイル供与要請を拒否していることについて報じている。概要は以下の通り。

1. 仏の軍事専門家は、仏国が最近、レバノンが求めている同国国軍への仏製地対空ミサイルの供与を断ったと述べた。

ル・フィガロ紙は、仏消息筋の話として、国連安保理決議 1701号（注：2006年8月11日にレバノンとイスラエルに停戦を要請した決議）に違反するイスラエルによる領空侵犯に対抗するためにレバノン国軍が対空防衛装備の入手に努めており、レバノンは米国、ロシア、仏に対して供与を要請したが、全て断られたことを伝えている。

2. 仏中東専門家筋によれば、レバノン南部を偵察飛行するイスラエル軍機の飛行高度である 3,000～5,000メートルにまで到達し得るミサイルがレバノン国軍に供与されることに対し、イスラエルは激しく反対しているようである。

また、同筋は、カタールおよびアラブ首長国連邦（UAE）も、仏又はその他の国々が了承するとの前提の下で（レバノンにミサイル入手のための）資金を提供し得る用意を示していたと述べた。

3. UAEは既にレバノンに対し、仏が開発したヘリコプター「ガゼル」12機を供与しているが、レバノン政府に対し、仏が反対していることを理由として同機用の攻撃型ミサイル供与は行っておらず、ミサイル等の装備品の供与については仏から了承を得るように求めていた。